

# 研究の手引き

## 研究主題

未来を創り出す豊かな心と確かな実践力をはぐくむ家庭科教育

- 人や環境と豊かにかかわり、生活をよりよくしようとする児童の育成を目指して -

## 研究のねらい

児童一人一人が生活の主体者として、家庭生活を大切にしている心情をはぐくむとともに、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け活用できるようにする。

人や環境と豊かにかかわりながら生活の課題を解決し、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

## 研究の視点

- 1 生活を創意工夫する力が育つ教材や題材の工夫及びストーリー性のある指導計画の作成
  - (1) 新学習指導要領の内容をふまえて題材や教材を開発・工夫し、各題材で育成する資質や能力を明確にして、基礎的・基本的な内容が身に付くようにする。また、それらの内容の相互関連や他教科との関連を図りながら、ストーリー性のある題材構成や配列を工夫する。
  - (2) 児童・学校・家庭及び地域社会の実態に応じて、児童の課題意識や中学校の内容を考慮しながら、児童が成長する自分を自覚することができるような、2学年を見通した指導と評価の計画を作成する。
- 2 人や環境と豊かにかかわりながら生活の課題を解決する力が育つ学習指導の工夫
  - (1) 児童が課題をもち、人や環境と豊かにかかわりながら課題解決に取り組むことができるよう、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を多く取り入れる。また、その過程において、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用できるようにする。
  - (2) 生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの言語活動を充実させる。
  - (3) 児童一人一人の思いや願いを積極的に生かして学習を展開することができるように、個別指導やグループ別指導、ティーム・ティーチングや地域の教育力の活用等、指導方法や指導体制を工夫し、多様な学習活動を展開する。
  - (4) 家庭科学習を通して身に付けた力を生活の中に生かす場を意図的・計画的に設定するなど、児童が家族の一員としての自覚をもち、家族や地域の人々と共に生活をよりよくしていく楽しさや充実感を味わえるようにする。
  - (5) 学校・家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割を果たしながら、相互に連携して児童の教育に当たることができるよう、各種通信・保護者会等を通して積極的に働きかける。
- 3 指導に生きる評価の工夫
  - (1) 目標を明確にし、具体的な評価規準や適切な評価方法を設定し、指導と評価の一体化を図る。そして、学校間の情報交換や研究実践を積極的に進め、改善を図りながら、より客観性・信頼性のあるものにする。
  - (2) 学習の過程が分かるワークシートや評価を工夫し、児童が自分の成長を自覚することができるようにする。
  - (3) 児童のよい点や可能性、進歩の状況などを多面的に評価するとともに、児童の自己評価や相互評価及び保護者等の評価を積極的に取り入れ、それを指導の改善に生かす。

## 留意事項

消費者として、主体的に考えて生活しようとする実践的な態度を育成する。

環境・福祉・健康問題等の現代的な課題を解決しようとする実践的な態度を育成する。

家庭科と総合的な学習の時間との違いや関連を明確にし、指導に当たる。

食育を推進する視点から、食に関する指導の充実を図る。

施設・設備及び学習環境の整備・充実に努め、安全・衛生に関する指導の徹底を図る。

教師の指導力を伸ばす研修の充実を図る。

新教育課程に円滑に移行できるよう、移行措置を適切に行う。